

所 信 表 明

平成31年3月11日

豊能町長 塩川恒敏

本日ここに、平成31年 豊能町議会3月定例会議が開催されるにあたり、町政を担当するにあたっての私の所信の一端を申し述べ、議員並びに町民の皆様のご理解とご協力をいただきたいと存じます。

その前にまず、志半ばで急逝されました故池田勇夫前町長のご功績に敬意を表しますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げる次第でございます。

さて、私事でございますが、この度の町長選挙におきまして、町民有権者の厳粛な信託を受け、栄えある第12代、7人目の豊能町長として、町政運営を担うことになりました。

住民の皆様のご支援と力強いご支持、ご鞭撻により、当選の栄に浴しましたこと、この場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。

町長就任後9日目ではありますが、住民の皆様はもちろんのこと、マスコミ報道やSNSの拡散など、豊能町以外の方々の関心も高く、改めて、その責任の重さに身の引き締まる思いでございます。

一方、愛する豊能町をより一層、明るく住み続けたい町、住みたくなる町にする。そして、この素晴らしい町を次世代の子どもに引き継ぐ、という重大な仕事に関われる喜びを感じるとともに、とにかく早

く行動したいという内なる情熱を抑えきれません。

まずは、住民本位の行政に向け、走り始めたばかりでございます。

私は、4年前、新光風台自治会長を拝命してから、太陽光発電による住環境破壊問題や防災行政無線の設置などについて町と折衝してまいりましたが、残念ながら、町行政に「住民本位」の姿勢を感じることができなかつたのが正直な感想です。また、府下で一番高い水道料金となった値上げなどにも疑問を持つようになりました。

そのような折、教育大綱において、すべての小中学校を西地区に一つにまとめる小中一貫校・学校再配置の構想が発表され、予算を計上し、基本計画と基本設計業務に着手されました。

また、東地区では道の駅構想が持ち上がり、基本設計と実施設計を行うことが発表されました。

私は、これらの計画実施には多額の経費が必要で、町財政の破たんを招く恐れがあり、子どもたちに将来の負担を強いるものと危惧しました。そこで、学校再配置の住民説明会にも出席し、町と教育委員会の考え方を質してきました。

将来を担う子どもの教育環境の充実は、誰もが望むものでありますが、残念ながら、多くの方々が疑問を持つ財政措置の説明はありま

せんでした。

また、東地区に学校がなくなる場合、人口減少を加速させ、結果、東地区の衰退を危惧する意見も多く寄せられておりましたが、まちづくりの観点での回答はありませんでした。

特に、少子高齢化、人口流出、税収の減少が続く中、持続可能な町財政運営は不可欠であり、その改革を期待する多くの住民の声に押され、私は住民本位の町政を目指すことにしたのでございます。

私は、「豊能町を変える。財政健全化と明るい未来づくり」をモットーにし、豊能町に住んで良かった、豊能町に住み続けたい、そんな住民本位のまちづくりを、議会の皆様、そして、住民の皆様と一緒に進めていく決意でございます。

議員の皆様、住民の皆様におかれましては、より一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

それでは、私が皆様にお約束する、豊能町のまちづくりに向けた、3つの基本政策について、その決意と考え方を述べさせていただきます。

まず、私の所信の一番目は『教育改革』でございます。

少子化により、学校の再配置は、いずれは避けて通れない課題であることは確かであります。

小中一貫教育は、子どもの成長に合わせた「学び」と「育ち」の連続性を大切にする教育課程で、「教育の質」を上げるソフト面の充実が第一であると考えています。

その上で、ハード面の整備に関しては、町財政の観点から、今ある施設を活用して、東西それぞれに、小中一貫校を設けるべきであると確信しております。

よって、現在の1小1中による小中一貫校の計画を取りやめ、東西にそれぞれ小中一貫校を置くための計画を策定いたします。

また、小規模校に合った特色のある学校教育を充実させることが「教育日本一」を目指せると考えております。

そのためには、「学力・体力・生活」の継続した総合調査が必要であり、これにより、子どもの成長を把握・分析することで、教師の指導力・授業力の向上も図れる改革を行います。

また、学校再配置にあわせ、保育所、幼稚園は、国の補助金を活用できる民営化により、パーク&ライド型、保幼連携型認定子ども園の

開設を押し進めます。

民営化により、町財政の負担を軽減し、その分を保育料の無償化に向け、振り向けてまいります。

次に、『住みやすいまちづくりと活性化』でございます。

豊能町は、予想した以上に、少子高齢化と人口減少が進んでいます。

本町はすでに充実した子育て施策を行っておりますが、少子化の状況に歯止めをかけるためにも、子育て世代を支援する施策を拡充してまいります。

特に、病児保育、病後児保育については実現できておりませんので、課題解決に向けて関係機関と協議・研究してまいります。

一方で、高齢化という避けられない将来に対応するため、高齢者の皆様が安心して暮らせる行政サービスを構築いたします。

高齢者福祉においては、行政だけで充実できるものではありません。

元気な高齢者が、他の高齢者を見守る。地域で支える。など更なる地域福祉の仕組みづくりを支援してまいります。

また、住環境の整備としては、「太陽光発電施設等と地域環境との調和に関する条例」と「豊かな自然と景観を守る条例」の早期の制定

を目指します。

住みやすさにも、まちの活性化にも欠かせない交通政策においては、北大阪急行の延伸に合わせ、東西交通の整備と広域交通網の整備を行い、利便性を向上させてまいります。

人口流入策として、箕面森町の企業団地従業員の本町転入を促進するとともに、空き家の再流通化を図ってまいります。

産業の振興においては、基幹産業の農業を中心に据え、農家のノウハウを活かした事業を開発してまいります。

次に、『行財政改革』でございます。

特に持続可能な財政への改革が、急務であります。

新たな箱物の建設は抑制し、持続可能な公共施設の再配置をするための、総合的なまちづくり計画を策定いたします。

道の駅構想については、「採算性の問題」、国保診療所、中央公民館など「公共施設をつぶす問題」、「公共施設の再配置計画がない問題」の観点から白紙撤回を行います。

しかし、「農業振興」「観光振興」「東地区の活性化」については、積極的に取り組まなくてはなりません。

また、豊能の歴史と文化を活かしたまちづくりを推し進めるため、高山右近生誕地や妙見口駅前の開発などに、地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）を受け入れるべく、地域再生計画を作成し、企業の寄付で、財政負担の軽減を図ります。

「仕事をしないで高給をもらう公務員」は世間の最大の批判対象であり、これは多くの頑張っている職員にとって納得のいかないものであります。新たな人事評価・給与制度についても検討してまいります。

町の総人件費の削減のため、私、町長報酬を30%カットいたします。成果の信任がいただけるまで続けてまいります。

最後に、早期のダイオキシン問題の解決に取り組めます。

現在、ダイオキシン廃棄物318袋、244トンとドラム缶6本、1.5トンは、安全な状態で役場周辺の倉庫等に保管されております。

低コストで安全に最終処分するためには、遮断型処分場での埋め立て処理が最も適切でありますので、処分場を受け入れていただく地元の皆様に対し、丁寧に説明を尽くした上で、ご意向をよくお聞きし、早期に最終処分を実現していきます。

以上、私の所信の一端を申し述べました。

私は、行政経験は皆無であります。議員各位や職員のご理解とご協力をいただきながら、まずは勉強を重ね、民間で培った顧客第一の精神を活かし、民間の手法も加え、豊能町の明るい未来に向けて、住民本位の行政を運営してまいります。

目指すは、豊かな自然を守る町、若者が活躍できる町、安全・安心の町でございます。

皆様と議論を尽くし、「変えるべきは断固として変え、伸ばすところは伸ばす」との姿勢を貫いてまいります。

住民の皆様、議員の皆様におかれましては、私の意図するところをお汲み取りいただき、さらなるご理解、ご協力、ご支援を賜りますようお願いよりお願い申し上げます。

平成31年3月11日

豊能町長 塩川 恒敏